日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

				目	1	7												
◆巻頭言(小倉信夫)	10,22,94	Nation.										ġē		81	90	i	13	1
◆1999年度日本線虫学会																		
講演プログラム・・																À		2
◆記事																		
動物分類学関連学会	会連合が	発足	(旁	钱城羽	催昭)			. 8 .	•	- 5		1		->			5

巻頭言

小倉信夫 (森林総合研究所)

多くの国立研究機関が、来年度より独立 行政法人として再出発します。それに伴っ て私の所属する森林総合研究所では線虫研 究室という単位はなくなります。大きな研 究室に所属することになる線虫研究者は、 まわりの人に線虫研究を行う意義を十分に 説明して研究予算を確保し、そしていい成 果をあげない限り、研究の継続はおぼつか ないし、将来的には研究者の減少は免れま せん。このような傾向はどの国公立研究機 関でも大学でも同じことと思います。企業 の研究機関の線虫研究者はさらに荒々しい 波に曝されていることはいうまでもありま せん。農林水産業関連の線虫学・・・「こ のように役立つのだ」と説明しづらい分野、 説明して納得さすことができても「もうけ 話」にはすぐに繋がらない分野、「言って ることは分かるんだけどなあ・・・だけど なあ・・・」と言われてしまいそうな分野、 厳しい経済状況のもとでは末節の学問とし て扱われてしまいそうな分野・・・いろ

いろな面で余裕のなくなりつつある今、私 たちは生き残りを賭けた闘いを強いられて いるようです。現実を見据えて、できるだ け身軽にして、研究に精進しなければ生き 残れないという焦りを禁じ得ません。

第8回線虫学会大会は「誰にでも開催できる大会」「手軽な大会」ということを意識して準備しています。これまでの大会と違って「いたらない」とお感じになる点が多々あると思います。どうかお許し下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

2000 年度日本線虫学会 第8回大会のお知らせ 大会事務局

2000 年度本学会大会を下記の通り開催 します。大会に関するお問い合わせは、大 会事務局(〒305-8687 稲敷郡茎崎町松の 里1 森林総合研究所 線虫研究室 線虫 学会大会8事務局 小倉信夫 TEL: 0298-73-3211 内線 407 FAX: 0298-73-1543 E-Mail: nogura@ffpri.affrc.go.jp)ま でお願いします。 2ページ左 下 13 行

2ページ右 下 11 行以下 学会 9月 14 日のプログラム 9月14日(水)(誤)→9月13日(水)(正)休憩を省略し、その後の講演を5分繰り下げます。 懇親会開始は予定通り 17:45 とします。

講演プログラム

1. 日程

2000年9月13日(水)

13:00~14:00 総会

14:10~17:35 一般講演

17:45~20:00 懇親会

2000年9月14日(木)

9:10~12:00 シンポジウム

13:00~16:55 一般講演

2. 会場

1) 大会:

科学技術庁「研究交流センター」 つくば市竹園 2-20-5 TEL: 0298-51-1331

2) 懇親会:

同センター内レストラン 交通などは、本会ニュース No.20 を ご参照下さい。

3. 参加費

大会参加費 2,000 円 (学生参加費 1,000 円、当日(7月25日以降)申込みの場合 は 3,000 円)、懇親会費 5,000 円(当日 (7月 25 日以降) 申込みの場合は 6,000 円)。

4. 講演プログラム

9月14日(水)

13:00~14:00 総 会

〔一般講演〕14:10~17:35

(座長 石橋信義)

14:10 101 近藤栄造・平佐友美・吉賀豊司 (佐賀大農):有明海の干満に伴う 汽水線虫の移動。

14:25 102 カマル エルナブリス・大嶋雄 治・本城凡夫(九大院農院)・白山 義久(京大院):海産線虫の生活史 とその成長に及ぼす塩分と温度の影 響。

14:40 103 荒城雅昭 · Z. KHAN (農環 研): 不耕起・堆肥連用圃場の土壌 線虫の多様性 (第2報) 一検出され た線虫属と多様性示数の試算一。

14:55 104 KHAN, Z. and M. ARAKI (Natl. Inst. Agro-environ. Sci.): Two new and two first reported species of predatory nematodes (Mononchida) from Ibaraki, Japan.

(座長 前原紀敏)

15:10 105 吉賀豊司・石川裕士・近藤栄造 (佐賀大農):ベニッチカメムシか ら分離された線虫について.

15:25 106 津田 格・神崎菜摘・二井一禎 (京大院農): Iotonchium 属線虫の 系統解析。

15:40 107 秋庭満輝・石原 誠・佐橋憲生 (森林総研):マツノザイセンチュ ウの2種類のアイソレイトのクロマ ツ樹体内での共存.

15:55 108 二井一禎(京大院農)・丹原久 美子(近畿大農):マツカルスを用 いたマツノザイセンチュウと寄主組 織の親和性の研究.

15:55~16:05 休憩

(座長:小坂 肇)

16:05 109 神崎菜摘・二井一禎(京大院 農):キボシカミキリ各亜種が保持 するクワノザイセンチュウ (仮称)。

16:20 110 真宮靖治(玉川大農):マツノ ザイセンチュウのマツノマダラカミ キリからの離脱経過-組織解剖学的 観察.

16:35 111 前原紀敏 (森林総研)・池上真

木彦(京大院理)・二井一禎(京大院農):マツノマダラカミキリによるマツ属4樹種へのマツノザイセンチュウの伝播.

(座長:山中 聡)

- 16:50 112 BILGRAMI, A. L., E. KONDO and T. YOSHIGA (Dept. Appl. Biol. Sci., Saga Univ.): Numerical analysis of the host searching and attraction mechanisms of Steinernema glaseri using Galleria mellonella as its host.
- 17:05 113 BALIADI, Y., E. KONDO and T. YOSHIGA (Dept. Appl. Biol. Sci., Saga Univ.): Endotokia matricidia in axenic steinernematid and hetero rhabditid nematodes.
- 17:20 114 吉田睦浩 (農環研):日本産昆虫病原性線虫 (Heterorhabditis 属および Steinernema 属)のニセタマナヤガ (Peridroma saucia) 幼虫に対する殺虫活性について.

17:45~20:00 懇親会

9月14日(木) 〔シンポジウム〕 9:00~12:00 (座長 水久保隆之)

「線虫研究における

分子生物学的研究手法の利用と展望」 9:00 挨拶 真宮靖治(日本線虫学会会長、

- 0 疾拶 具含靖冶(日本線虫字会会長、 玉川大農)
- 9:10 S1 刑部正博(農研センター): ハ ダニ研究における遺伝子分析技術利 用の現状。
- 9:45 S2 大類幸夫(葉たばこ研): PC R法による主要な有害線虫の簡易 同定法。

10:20~10:30 休憩

- 10:30 S3 岩堀英晶(九州農試)・神崎菜 摘・二井一禎(京大院農):分子系 統解析から探るマツノザイセンチュ ウの地理分布と種分化。
- 11:05 S4 植原健人(北海道農試):線虫 抵抗性遺伝子-最近の研究動向-.

11:40 総合討論

〔一般講演〕13:00~16:55

(座長 荒城雅昭)

- 13:00 201 鳥越博明(鹿児島農試大島支場)・森田重則(鹿児島農試徳之島支場):奄美群島のサトウキビ栽培地帯で検出される植物寄生性線虫・
- 13:15 202 奈良部 孝(北海道農試):北 海道に侵入した暖地型ネコブセンチ ュウの同定と生理的特性.
- 13:30 203 佐野善一・岩堀英晶(九州農 試): サツマイモの線虫抵抗性に基 づくサツマイモネコブセンチュウの レース判別。

(座長:佐野善一)

- 13:45 204 伊藤賢治・水久保隆之(農研センター)・渡邊貴由(片倉チッカリン): ゴボウ壊死斑によるキタネグサレセンチュウ圃場密度の推定.
- 14:00 205 百田洋二 (北海道農試): タバ コシストセンチュウのナス科寄主に ついて.
- **14:15 206 相場 聡・杉本光穂(農研セン** ター): 不耕起栽培がダイズシストセンチュウ密度に及ぼす影響。

(休憩 14:30~14:40)

(座長:相場 聡)

- 14:40 207 串田篤彦・植原健人・百田洋二 (北海道農試):ジャガイモシスト センチュウに対する天敵糸状菌(B CF)の接種効果。
- 14:55 208 福澤晃夫・佐藤 敦・渡辺織 絵・笠原建二・成瀬大洋・西村弘行 (道東海大工)・山田英一(雪印種 苗):トマト根浸出物のジャガイモ シストセンチュウに対する孵化阻害 活性と性質。
- 15:10 209 諸見里善一(琉球大農)・古我 知 信((株)青い海)・田場 聡 (沖縄農試):有機物施用によるネ コブセンチュウの減少とそのメカニ ズム。

(座長:近藤栄造)

- 15:25 210 TALAVERA, M. and T. MIZUKUBO
 (Nat. Agric. Res. Center):
 Influence of soil conditions, storage
 and nematode age on Pasteuria penetrans attachment to Meloidogyne incognita.
- 15:40 211 下元満喜(高知農技セ)・佐野 善一(九州農試): Pasteuria penetrans のサツマイモネコブセンチュ ウへの付着効率におよぼす土性・土 壌水分の影響。
- 15:55 212 水久保隆之・タラベラ ミゲル (農研センター):熱水消毒とパス ツーリア菌の併用によるサツマイモ ネコブセンチュウ密度抑制効果:線 虫密度層別調節土壌模擬試験。

(座長:川田弘志)

16:10 213 三平東作(千葉暖地園試):天 敵出芽細菌を用いたイチジクのサツ マイモネコブセンチュウ防除。

- 16:25 214 立石 靖 (九州農試):連・輪 作および Pasteuria penetrans による サツマイモのネコブセンチュウ害抑 制 W. P. penetrans 施用後7作目 の効果。
- 16:40 215 石橋信義・大坪亮介 (佐賀大 農): 菌食性線虫 Aphelenchus avenae の長期保存。

5. 講演者の方へのお知らせ

一般講演の講演時間は、1題当たり 15 分(予鈴 10 分、2 鈴 12 分、終鈴 15 分) です。講演者多数のため時間厳守をお願い します。

講演に使用する図表などは 35mm スライドあるいはOHPとし、講演1題につき10 枚を目安として下さい。各スライドの光源側には、講演番号、演者名、挿入方向(矢印または赤線)、映写番号を付けて下さい。



本大会の講演要旨は、日本線虫学会誌 第30巻2号に登載する予定となっており ます。要旨の修正が必要な場合は、9月末 日までに日本線虫学会誌編集事務局(〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学 農学部応用生物科学科線虫学研究室内 TEL: 0952-28-8748 FAX: 0952-28-8709) 宛に修正した要旨をお送り下さい。

大会参加を予定されている方で、参加申 し込みをお済ませでない方、参加費等を未 納の方は、当日の会計事務の簡素化を図る ためにも、なるべく早く参加申し込み、会 費納入をされますようご協力をお願い致し ます。

[記事]

動物分類学関連学会連合が発足 荒城雅昭(農業環境技術研究所)

2000年1月8日、東京都新宿区百人町 の国立科学博物館分館において、設立総会 が開催され、日本動物分類学関連学会連合 (以下動物分類連合という)が発足した。 動物分類連合の目的は、動物分類学全般に かかわる研究および教育を推進し、わが国 におけるこの分野の普及と発展に寄与する こと(運営規則第2条)とされている。発 足時の参加学会は、日本貝類学会・日本魚 類学会・日本蜘蛛学会・日本原生動物学 会・日本甲殼類学会・日本ダニ学会・日本 動物分類学会・日本土壌動物学会・日本爬 虫類両生類学会の9学会であった。参加呼 びかけ (設立趣意書) の段階では、日本昆 虫学会をはじめ、日本生物地理学会・日本 哺乳類学会も名を連ねていたので、これら の学会、特に日本昆虫学会は参加の意志が あるものと思われる。

動物分類連合結成の背景には、分類学および分類学者が後継者育成、教育、社会への影響、PRなどあらゆる場面で他の生物学の後塵を拝してきたことへの反省、対応策として、分類学者が一堂に会し、意見を交換し、分類学全体を見渡した発想を持つ

必要があるとの認識がある。この反省は日本線虫学会にもそのままあてはまると思う。 日本線虫学会を盛り立てるための、日本線虫学会の中での活動も大切であるが、線虫という生物を、動物・植物・微生物の専門家を始め、広く一般にまで知ってもらう活動も必要であろう。このため筆者は、日本土壌動物学会、日本動物分類学会、日本植物病理学会にまで活動の場を広げているが、このような学会の会場で自活性線虫専門の会員にお目にかかるのも楽しいものである。

動物分類連合はまた、これまで動物分類 群別の学会でバラバラに活動してきた分類 研究者を、生物多様性研究に結集しようと するものでもある。生物多様性条約締結以 後、世界的には、生物多様性国際プロジェ クト「DIVERSETAS」 (http://www.icsu. org/DIVERSITAS 参照) や生物データベー スプロジェクト「SPECIES2000」 (http:// www.sp2000.org/参照) が走り出している。 わが国では、(社)日本動物学会が「ガイ アリスト 21 プロジェクト」(本学会ニュ ース No.15 の白山義久氏の巻頭言参照)を 提唱している。昆虫と双璧をなす多様性の 宝庫、線虫を抜きにしての生物多様性研究 など成り立ちはしない。本学会ニュース前 号で書かせていただいたように、線虫分類 研究者の層があまりに薄い現状では、多様 性研究に参画しても、他の分類群に肩を並 べていくのが大変ではあるが。

来るべき総会や評議員会で充分論議することが必要であるが、日本線虫学会も動物 分類連合に参加してはどうであろうか? 参加している学会にはかなり大きな学会も あるが、例えば研究会レベルから、日本線 虫学会とほぼ同時に学会に脱皮した日本ダニ学会のような小さな学会も参加している ことである。参加学会の分担金は「別に定 める」(運営規則第 11 条)とあるが、どのように定められたのか、現時点では情報はない。参加学会の希望する会員に、E-mail でニュースレターを配布する程度ならば、寄付金があるので当面分担金を集める必要がないのかもしれない。動物分類連合は学会の Union あるいは Federation であり、参加も脱退もそれぞれの学会の自由意志ででき、参加学会の自由を束縛したり何かを強制したりするものではないということである。

「編集後記]

- ◆日本線虫学会大会の講演申込みは締め切りましたが、参加は随時受け付けています(当日申し込みも可)。奮ってのご参加をお待ちしています。一般講演は29題で、昨年を1題上まわりました。5題、10題と増えるものでもありません。まずは一歩前進、申し込みどうもありがとうございました。
- ◆SON (アメリカ線虫学会) の大会に は今年も何人か参加し、講演発表をし てきたようです。その様子は、次号で お知らせできると思います。

2000年8月10日日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行 編集責任者 荒城 雅昭 (ニュース編集小委員会)

農業環境技術研究所 環境生物部微生物管理科 線虫·小動物研究室

〒305-8604

茨城県つくば市観音台3-1-1

TEL: 0298-38-8316 (FAX兼用)

FAX: 0298-38-8199

E-mail: arachis@niaes.affrc.go.jp

設立総会の後、参加学会あるいは他の学会の研究者によるシンポジウムが開催された。ニュースレターに要旨が掲載されているが、多くの学会の力が結集され、大変面白いシンポジウムであった。タイトルだけでも紹介しようと思ったが紙面が尽きた。月日の経つのは早いもので、設立総会から半年が過ぎた。4月25日に発行されたニュースレターのNo.1(E-mail 添付.PDF形式)に続く次の動きが待ち遠しい。

- ◆生物多様性は分類研究と生態研究の合言葉のようになっていますが、こと農林水産省の試験研究機関にとっては絵に描いた餅(プロジェクト研究課題にならず予算が付かない)。夏バテ解消はなりませんでした。
- ◆日本線虫学会ニュースの原稿を随時募集しています。身近な線虫の話題、諸会議の報告、学会または会員への提案等どのような内容でも結構ですので、下記ニュース編集小委員会までご連絡ください。 (荒城雅昭)

日本線虫学会ニュース第21号 ニュース編集小委員会 荒城 雅昭(農環研) 小倉 信夫(森林総研)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせ は学会事務局

> 〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1 農業研究センター 線虫害研究室まで

TEL: 0298-38-8839 FAX: 0298-38-8837

E-mail: mizu@narc.affrc.go.jp